

令和5年度和裁士技能検定2級学科試験解答

実施日：令和6年3月10日
所用時間：60分

(1) 次の5問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称をよく分かるように記入して裁断図を書きなさい。(裁ち切は実線、折り山等は点線で記入) (配点各問6点)

① 並幅物1.2m31cm(3丈2尺5寸)の反物で、本裁女物長着を下記指定寸法で追い裁ちにしたい。

裁断図および各部の寸法と名称を記入しなさい。

身丈 背より出来上がり165cm(4尺3寸5分)

袖丈出来上がり51cm(1尺3寸5分)・繰越2.6cm(7分)

裷下(衿下)出来上がり81.5cm(2尺1寸5分)・他は標準寸法とする。

(注) 袖の前後、上前身頃、上前衿、上前共衿、上前衿裾などの位置を明記すること。

| | | | | | | | | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------------|-----|-------------------|-----|
| 後袖 | 前袖 | 後袖 | 前袖 | 後身頃 | 上前身頃 | 後身頃 | 下前身頃 | 衿 158cm 417 | 下前裾 | 衿 158cm 417 | 上前裾 |
| 55cm 145 | 55cm 145 | 55cm 145 | 55cm 145 | 174cm 459 | 174cm 459 | 174cm 459 | 174cm 459 | 共衿 95cm 250 | 地衿 | 221cm 584 | 上前 |

② 並幅物1.2m(3丈1尺7寸)の反物で、本裁女物給長襦袢を作りたい。その裁断図を記入しなさい。

| | | | | | | | | | |
|---|---|-----|----|-----|-----|----|-----|----|----|
| 袖 | 袖 | 裾返し | 身頃 | 裾返し | 裾返し | 身頃 | 裾返し | 立衿 | 衿先 |
| | | | | | | | | 立衿 | 衿先 |

③ 並幅物3.8m(1丈)の裏地で、女物長着の裾廻し(八掛)を裁ちたい。その裁断図を記入しなさい。

| | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|
| 後裾 | 後裾 | 前裾 | 前裾 | 裏衿 | 袖口 |
| | | | | 裏衿 | 袖口 |
| | | | | | 衿先 |
| | | | | | 衿先 |

④ 並幅物1.18m(3丈1尺2寸)の反物で、留袖用比翼を作りたい。その裁断図を記入しなさい。

ただし、袖は口・振とし、衿裏共布とする。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|----|----|----|----|
| 裾 | 裾 | 裾 | 裾 | 衿 | 地衿 | 共衿 | 振 | 振 |
| | | | | 衿 | 裏衿 | 袖口 | 袖口 | 振口 |
| | | | | | | 袖口 | 袖口 | 振口 |

⑤ 並幅物1.0m(2丈6尺)の反物で女物給羽織を裁ちたい。その裁断図を記入しなさい。

| | | | | | | | | |
|---|---|-----|----|-----|-----|----|-----|---|
| 袖 | 袖 | 裾返し | 身頃 | 裾返し | 裾返し | 身頃 | 裾返し | 衿 |
| | | | マチ | 袖口 | 袖口 | マチ | | |

(2) 次の各問の文章が正しい場合には○印、誤っている場合には×印を各問の所定の位置につけなさい。(配点各問2点)

- (×) 1. 四君子模様とは松・竹・梅・欄の模様のことである。
- (○) 2. 交織とは経糸と緯糸が異なった糸で織られた織物である。
- (○) 3. 結城紬の主な生産地は茨城県である。
- (○) 4. 1デニールとは9000mで100グラムの重みのある糸のことである。
- (×) 5. レーヨンと麻は水にぬれると弱くなる。
- (×) 6. 緞子(どんす)は綾織の組織である。
- (○) 7. ミシン針は表示数が小さくなるほど細くなるが、針丈は変わらない。和針の表示数は前の数が小さいほど太く、後ろの数が大きいほど針丈が長くなる。
- (×) 8. 色留袖の紋は必ず五ッ紋にしなければならない。
- (○) 9. 茶屋辻模様は全体が茶色系の一色染めである。
- (○) 10. 柄裁ちをする場合、長着は上前の前身頃及び胸にポイントを置き、羽織は後身頃にポイントを置く。
- (×) 11. 鳩胸の人は、胸幅を広くするために衿下がりを多くするとよい。
- (×) 12. 太った人の長着の衿肩明きは、多くするとよいが、繰り越しは無い方がよい。
- (○) 13. 喪服の長襦袢は一般的に白色の生地を用いる。
- (○) 14. 本裁ち男女の長襦袢の着丈は、身長80%~83%くらいに決めればよい。
- (○) 15. 共衿(掛衿)を2本取る場合、仕立寸法に用布を見積もり50cm残れば取れる。
- (×) 16. 女物長着の袖付けの付け違いは、前袖付けを少なくする。
- (×) 17. ①着尺一反 ②給振袖用長襦袢一反 ③大島紬一疋のうち、②が一番短い反物である。
- (×) 18. 三ッ紋の位置は背紋と、抱紋である。
- (○) 19. 羽二重、お召は先染物であり、紬は後染物である。
- (×) 20. 女物長着の袖の柄は右も左も後ろにポイントを置くことよい。
- (×) 21. 単衣羽織の鉄砲付をする場合、前後・当を付けてから、衿を付ける。
- (○) 22. 一反の反物から羽織を二枚作るとき、前身頃から衿を取る場合は、背縫いが深くなるので、必ず、裾を測ってから裁つべきである。
- (×) 23. 女物羽織の袖丈は、長着の上に着るので、袖丈は長くする。
- (×) 24. 道行コートはフォーマルなもので、外出はもちろん、室内でも脱ぐ必要はない。
- (×) 25. 衿を多く抜いて着付けをする人の着物の袖付けは後ろを多くする。
- (×) 26. 一般的な道行コートの縦衿下がりとは、胸明寸法は同じである。
- (×) 27. 訪問着を着用するときは必ず羽織を着る。
- (○) 28. 鯨小紋のきものは、紋を付ければ略礼装のきものになる。
- (○) 29. 女子の小紋の着物に袴を付けると礼装になる。
- (×) 30. 草木染めは花・草・樹木などの模様を染め出したものである。
- (×) 31. ポリエステル・アクリル・レーヨンはいずれも合成繊維である。
- (×) 32. 色の三原色とは赤・緑・青紫である。
- (○) 33. 鳩胸の人の長襦袢は着ると前が上がるので、身ハツ口にタックを取ると良い。
- (○) 34. 女物長着の裾廻しが短尺物の場合、前裾布から袖口布を取る場合がある。
- (×) 35. 日本における家庭用電源は、100Vを使用している。10A(アンペア)コンセントで、次の3つずつの電熱器を使用することができる。
①150W+300W+600W ②300W×3 ③150W×2+500W